| 学科<br>学年 | MED3 | 科目<br>分類 | 歴史<br>History | 講義<br>必修 | H.19<br>通年<br>２単位 | 学習教育<br>目標<br>（A） | 担当 | 鈴木　静恵<br>SUZUKI Shizue |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 概　要 | ① 大航海時代にはじまるヨーロッパ主権国家体制の成立と世界の一体化の開始、さらに市民革命と産業革命を経て成立した欧米国民国家の主導下に世界が国際的分業体制に組み込まれてゆき、現代の一体化した地球世界の出現に至った過程を学ぶ。<br>② そのような近代史の経過の中で戦争も平和も人類全体にかかわるものとなり、現代世界の様々な問題が生み出されてきたことを学ぶ。 |
| 科目目標<br>（到達目標） | 近現代の歴史の学びを通して、今日の世界の様々な課題を理解するとともに、学習者自身が21世紀の歴史を作り出す一人であることの自覚を促す。 |
| 教科書<br>器材等 | 山川出版社：世界史B　　浜島書店：新詳世界史図説 |
| 評価の基準と方法 | 定期試験の成績約70％、平常授業での積極的な学習姿勢（レポート提出等を含む）約30％として評価。60点以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 地理 |

授業計画

| | 参観 | （授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。） |
|---|---|---|
| 第 1回 | | ガイダンス |
| 第 2回 | | 大航海時代の開始 |
| 第 3回 | | ルネッサンスと宗教改革 |
| 第 4回 | | 主権国家体制の形成（１） |
| 第 5回 | | 主権国家体制の形成（２） |
| 第 6回 | | ヨーロッパ諸国の海外進出 |
| 第 7回 | | アメリカの独立 |
| 第 8回 | × | 前期中間試験 |
| 第 9回 | | フランス革命とナポレオン |
| 第10回 | | 産業革命 |
| 第11回 | | 国民国家の発展（１） |
| 第12回 | | 国民国家の発展（２） |
| 第13回 | | 西力東漸下のアジア |
| 第14回 | | 明治維新と岩倉使節団 |
| 第15回 | × | 前期期末試験 |
| 第16回 | | 帝国主義の時代 |
| 第17回 | | 第一次世界大戦 |
| 第18回 | | ロシア革命とソヴィエト連邦 |
| 第19回 | | ヴェルサイユ体制 |
| 第20回 | | 大衆社会の誕生 |
| 第21回 | | 世界恐慌とファシズムの台頭 |
| 第22回 | | 日本の東アジア侵略 |
| 第23回 | × | 後期中間試験 |
| 第24回 | | 第二次世界大戦 |
| 第25回 | | ヤルタ体制と冷戦の開始 |
| 第26回 | | 中華人民共和国のあゆみ |
| 第27回 | | アジア・アフリカの自立と混乱 |
| 第28回 | | 冷戦の終結 |
| 第29回 | | グローバル化と多極化 |
| 第30回 | × | 学年末試験 |

| | |
|---|---|
| オフィスアワー | 質問等には授業日の放課後等に対応できる。 |
| 授業アンケートへの対応 | 授業進度遵守。一方的講義にならぬよう、学生との十分な質疑応答を取り入れながら進める。分かり易く見やすい板書を心がける。 |
| 備　考 | 適宜ビデオ教材等を使用 |
| 更新履歴 | 20070316、新規作成 |